

| 令和6年度 第4回三条市こども未来委員会会議録 | |
|-------------------------|--|
| 日 時 | 令和6年11月25日(月)午後1時30分～3時10分 |
| 場 所 | 三条市役所栄庁舎3階 大会議室 |
| 出席者 | 出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、山村委員、福田委員、山田委員、近藤委員、宮島委員、森山委員、山崎委員、石塚委員、金子委員、高橋委員 欠席委員：栗山委員、与斉委員、工藤委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、小林課長補佐、相場子ども家庭サポートセンター長、五十嵐子育て支援係長、草野幼児・児童係長、飯田総合支援係長、石坂発達応援室主査、石田主任 傍聴者：なし 報道機関：なし |
| 委 員 会 内 容 | |
| | <p>【次第】</p> <p>1 開 会 午後1時30分開会</p> <p>2 あいさつ 平岡教育部長から挨拶</p> <p>3 議 事</p> <p> 第3期すまいる子ども・若者プラン(案)について (小林課長)</p> <p> 第3期すまいる子ども・若者プラン(案)について(第5章I)説明</p> <p>【質疑】</p> |
| 宮島委員 | 資料35ページの「市内の子ども・子育てに関する活動団体数」、「園内での「対話・語り合い」による保育の改善・充実を図った施設長の肯定的評価の割合」の施策の成果・効果指標について、あまりにも高い、理想値すぎるのではないか。 |
| 小林課長 | 市内の子ども・子育てに関する活動団体数について、資料27ページに子ども・子育てに関する活動団体数を掲載しており、現在は20団体。今後、子どもの放課後の居場所づくりを推進しようと考えており、この目標値とした。園内での「対話・語り合い」による保育の改善・充実を図った施設長の肯定的評価の割合についてだが、各施設の好事例を共有することで、90%は達成しえない目標ではないということでこの数値を掲げた。御指摘があったので、改めて検討したい。 |
| 宮島委員 | 資料39ページ、「その他注力していく主な取組」に「食育」が入っていないのは何故か。 |
| 小林課長 | 食育は別計画を策定しているため記載しなかった。取組とし、記載するかどうかも含めて検討する。 |
| 高橋委員 | 子どもの放課後の居場所が増えていくのは、喜ばしいことだと思うが、放課後の居場所の運営は、市からの委託になるのか、民間の運営になるのか。 |

| | |
|------|---|
| | <p>か。官民連携という意識が入っていない。民間事業者が立ち上げて運営する件数を増やしていかないと、市が立ち上げて運営してで終わってしまう。民間事業者への啓蒙、空いている場所建物の活用も必要だと思う。西蒲区巻駅の前に夜10時～朝8時まで開いていて夜泣きで困っているお母さんの駆け込み寺となる「夜泣きカフェ」を立ち上げようとしており、その立ち上げを手伝っている。核家族化が進んでいて、乳幼児を一人で抱えて悩んで、朝起きたら子どもが亡くなってましたというニュースを聞くと、そういった場所が必要だと思う。こういった事業を展開するのであれば、他の自治体がやっていない先進的な事例を民間を取り込んで構築するといった内容でやっていただきたい。</p> |
| 小林課長 | <p>子どもの居場所についてだが、資料34ページに「民間活力による」というところまでしか記載していないが、民間の活力の視点は必要と思っている。民間活力の活用による子どもたちが自由に過ごすことができる遊びの場、学びの場の具体については、これから検討を進めていきたい。</p> |
| 高橋委員 | <p>それは、民間主体で行うと考えていいのか。</p> |
| 小林課長 | <p>やり方については、今後検討するが、行政主導だけではないとは思っている。</p> |
| 高橋委員 | <p>県内に137のこども食堂があるが、運営ができていないのが7割位ある。子どもの活動をやるのはいいが日常的な活動ができなければ意味がない。事業の支援が重要だと思っている。</p> |
| 小林課長 | <p>具体的な事業を進めていく中でいただいた御意見を取り入れていく。</p> |
| 平岡部長 | <p>補足すると、子どもの居場所事業を行うときにどこに軸足を置くかといえば、基本スタンスは民間が主体的に実施するのがよい。ただ、持続可能な活動は、行政の支援が必要な部分もある。役割分担を含めて、考えていかなければならない。三条市には、いくつかの団体が立ち上がってやっているが、その団体に三条市からお声掛けして立ち上げてもらった団体はない。どういった形がスムーズに事業を進めることができるのか、私たちも模索しながら進めさせてもらう。</p> |
| 山田委員 | <p>部活動の地域移行の件に、子どもの居場所も絡めて検討をしていただけるとありがたい。</p> |
| 平岡部長 | <p>部活動の地域移行については、子どもたちが様々な経験を通して、自己肯定感を高めていく場の一つとなってほしいと思っている。場所は作ったが、お金等家庭の事情で踏み出すことができないことも現実的にある。その点について、具体的に書き込むか、書き込まない方がいいのか迷った。支援は、補助金や給付金などの財政負担に結び付いていくものであり、そこを軽々しく書くことができなかった。ある程度見込が立っているものは書くことができるが、現段階ではそこまで書くことは難しいと考え、この</p> |

| | |
|------|--|
| | 書き方でとどめている。貧困の項目も同様だが、今後、具体的な取組が検討できればと思っている。 |
| 福田委員 | 学校単位で考えると、子どもの居場所は学校以外思いつかない。三条市主導で、地域のボランティアを募っていただき、放課後の学習教室等をやっていたら学校としてもやりやすい。 |
| 小林課長 | 行政だけではなく、民間や地域の皆様との連携による居場所作りが大事だと思っている。具体の取組を考える中で検討していく。 |
| 宮島委員 | 資料 42 ページの「子ども・若者の意見表明の機会の充実」に関連して、私は、三条俳句作家連盟の会員で「三条市児童生徒俳句祭」を主催している。事業をするに当たり、三条市等から補助金をいただいているが資金が足りず、三条俳句作家連盟から持ち出している。三条俳句作家連盟の会員も高齢化が進み、会員数も減っている。毎年毎年、持ち出しがあると、資金が枯渇して三条市児童生徒俳句祭を行うことができなくなる。補助金額を上げていただくことを要望する。 |
| 平岡部長 | 資料 42 ページ、子ども・若者の意見表明の機会の充実は私のメッセージをイメージした項目。それに限らず、委員から御紹介のあった俳句や川柳なども非常に意義のあるものだと思っている。他方、要望のあった、財政負担が絡んでくるものというのは、この事業だけではなく、他の事業にも言えることであり、全体を通してできるのかどうかを考えていきたい。 |
| 高橋委員 | 日常的に子どもの意見を吸い上げるのに LINE は、非常に優れているツール。QR コードさえあれば、三条市の公式ラインにも簡単にアクセスできるが、公式ラインがあることを知らない子が多い。公式ラインを活用して、子どもたちの日々の話が聞けるようになるとよい。そうすると、子ども自身が日々の情報を発信できるような環境ができる。LINE を持ってなかったとしても、友達の LINE を借りて情報を発信することが可能。イベントごとでも大事だが、日々の SOS をくみ取ることが大事。 |
| 小林課長 | 三条市の公式ラインが子どもたちに浸透していないことも事実としてあると考えている。気軽に自分の情報を発信できるツールについても検討していきたい。 (小林課長) 第 3 期すまいる子ども・若者プラン (案) について (第 5 章 II) 説明 |
| | 【質疑】 |
| 宮島委員 | 資料 46 ページ「纏わる」にルビをふる等、分かりやすくしてほしい。 |
| 小林課長 | 分かりやすい表現に改める。 |

| | |
|------|--|
| 金子委員 | <p>資料 47 ページに「産前からの子育て教室実施の検討」を掲載していただきありがたい。産前からの子育てを伝えることで夫婦が少しでも仲良く生活できれば子どもの成長にも発達にもいい影響があると考え、是非資料 38 ページ、妊産婦が安心して周産期を迎えられる環境の形成にも「産前からの子育て教室実施の検討」という項目を入れてほしい。フードバンクの運営支援を行っているのでそこでひとり親の方とお話をする機会がある。周産期の大変な時期を夫婦で協力し合って生活していたら、ひとり親にならなくてよかったのではないかなという方が多々いる。ひとり親への支援にたくさんのマンパワーと費用をかけるのであれば、産前からの子育て教室に注力した方がよいと思う。</p> |
| 小林課長 | <p>産前からの子育て教室の重要性は金子委員、近藤委員に以前から言われており、第 5 章Ⅱ子育て当事者への支援だけではなくⅢ家庭、地域の意識の醸成にも記載している。それを、第 5 章Ⅰ子どもの健やかな成育への支援にも記載してほしいということだが、施策体系のどこに位置付けるかは検討させてほしい。</p> |
| 高橋委員 | <p>資料 48 ページ記載の経済的負担の軽減と子どもの生育が三条市の二大課題になっている。経済的負担の軽減というところの自治体もお金を配ることをやると思う。衣食住で「衣」はゴミの減量化、「食」はフードロスの削減になるが、食についてはフードバンクつばめがやっている「コミュニティフリッジ」という全国的なモデルがある。登録すると、スマホで電子ロックが解除でき、24 時間出入りでき、食材を貰うことができる。また、子ども関係の日用品だと、特に衣類にお金がかかり、一般的な 4 人家族だと年間 10～15 万円かかると言われている。年間で 3%、3～5 万円を軽減したいということで、衣類の譲渡会全国連絡協議会を作って衣類の譲渡会を田上と分水で行っている。私は ZUPPE でいらぬ物を持ってきてもらって、いるものを持っていってもらう物々交換所をやっている。衣食住はゴミの減量、フードロス、空き家対策といった削減課題だと思っている。地域の削減課題を解消するために地元の人たちが物を持ち寄ることができる場所が栄地区や下田地区にあるといいなと思っている。コミュニティ自体にそういったものが入っていると、子育てのアドバイスや相談もしやすくなると思うので、新たに検討する又は充実を図るべき主な取組に「地域内循環による家計負担軽減」を入れていただけるとありがたい。地域内循環は環境省と厚生労働省のいいところをとった施策ができると思うし、これを言っている自治体は他にないので是非とも記載をお願いしたい。</p> |
| 小林課長 | <p>いただいた意見を踏まえて必要なことを追加していきたいと思う。</p> |
| 山村委員 | <p>資料 47 ページ「産前からの子育て教室」についてだが、それとは別に夫婦で受けるカウンセリングというものはないのか。「教室」だと受け身になるし、もしくは夫婦のどちらかしか参加しないことがあると思う。夫婦 2 人と、中間意見を言ってくれるカウンセラーもいて、相当意味があるものになると思う。受取方は人によって違うが、どちらの肩を持つわけでもない、中間の方が間にいて話を聞いて、補正してくださるシステムがあ</p> |

| | |
|------|--|
| 小林課長 | <p>るといいなと思う。</p> <p>資料 45 ページの「利用しやすい相談体制の確保」の中で相談体制の充実を検討していくことになるが、委員からの御意見は、その中の一部であると捉えている。事業として行っていけるかどうかを検討したいと思う。</p> |
| 近藤委員 | <p>指定管理であそぼっての運営を行っている。現在、令和 7 年度の予定を組んでいて講座を減らす方向で考えていたが、資料 44 ページには「子育て拠点施設や子育て支援センターで実施する講座やイベントの充実」と記載してある。どう進めていったらよいか。資料 47 ページの「子育て支援団体による育児サービスの活性化方策の検討」について、ファミリーサポートセンターを作らずに今ある子育て支援団体を使っての子育て支援になると思うが、この先 5 か年の中で今ある子育て支援団体がなくなったらどうするのだろうと心配。資料 43 ページの「多様なニーズに対応した保育環境の充実」の「その他注力していく主な取組」の中に「一時預かり事業」があるが 0 歳児の日曜日の預かりについて、考えていることがあれば教えてほしい。</p> |
| 小林課長 | <p>講座関係については、利用者のニーズを把握し、数を増やすということではなく、利用者が求める講座を開催することによって支援が充実すると考えている。ファミリーサポートセンターについては、3 つの団体と話し合いをしていて支援の方向性を模索している。この 3 つの団体がなくなることは考えておらず、支援を充実させることでサービスを低下させないということを考えている。0 歳児の預かりについては、具体的なところは決まっていないが、国の方で令和 8 年度にこども誰でも通園制度が始まる。三条市においても、来年度から試行的に開始できないかということを考えている。利用者のニーズを把握し、必要な事業については、検討していこうと思っているが現時点では、回答は持ち合わせていない。</p> |
| 近藤委員 | <p>預かってほしいという要望の中に、送迎付きのものが多。現在はシッターの高齢化により、送迎は全てお断りしている。送迎付きの預かりが求められているのに全てお断りしているという現状を理解していただきたい。</p> |
| 小林課長 | <p>実際、送迎を伴う預かりのニーズがあることは把握している。それを全て賄うのは難しいということも認識している。どこに課題があるのかを確認し、必要な支援を検討していく。</p> |
| 森山委員 | <p>資料 51 ページの「新たに検討する又は充実を図るべき主な取組」の中で「企業への働きかけ」があるが、これは、ひとり親家庭に限ったことではないと思う。私も、子育てをしており様々な行事で 1 か月に 1 回程度会社を休まなければならないことがあり、企業の理解がないと子育てができないのだなと感ずることがある。「多様な働き方への理解を企業側へ求めていく」と資料に記載してあるが、具体的にどのように働きかけていくのかを伺いたい。</p> |

| | |
|-------|--|
| 小林課長 | <p>ここではひとり親に特化した書き方をさせてもらっているが、資料の 55 ページに、子育て家庭全体に対するものを記載させてもらった。実際には商工会議所や経済部と連携して企業への働きかけをしていこうと思っているが、具体的な手法は商工会議所や経済部と相談していきたい。</p> |
| 山崎委員 | <p>子どもが通っている保育園の担任と副担任の先生が体調不良でお休みしたことがあった。その時に、子どもが少し不安定になった。保育士の健康や労働環境にも配慮をいただきたい。</p> |
| 小林課長 | <p>現在、保育所での ICT 化を進めており、事務の負担軽減をし、子どもと触れ合う時間の確保に努めている。他の保育所の好事例を共有することで、自園に取り入れられることを取り入れてもらうなど、保育士の負担軽減の取組を進めていこうと考えている。</p> |
| 真壁委員長 | <p>資料 51 ページの「アンケートで「放課後を誰と過ごすことが多いか(複数回答)」に対し「父・母」と答えた児童生徒の割合」の指標について、祖父母との同居の家であればこのような指標でよいと思うが、ひとり親は余儀なく子どもと 2 人きりになるので、この時間が長い方がいいのかという疑問を感じる。関わりの量よりも質で、ひとり親が子どもと関わることができるといいと思う。</p> |
| 小林課長 | <p>アンケートは、「父・母」ではなく「家族」で取らせてもらった。訂正する。この指標が適切なのかどうかを内部で検討する。質が大切は重要な視点。</p> <p>(小林課長) 第 3 期すまいる子ども・若者プラン (案) について (第 5 章Ⅲ) 説明</p> <p>【質疑】</p> |
| 宮島委員 | <p>資料 53 ページの「安全・安心」となっていたり「安心安全」となっている。資料として、言葉を統一した方が良い。</p> |
| 小林課長 | <p>記載方法は精査し、調整する。</p> |
| 高橋委員 | <p>資料 52 ページに「子育て団体等の立ち上げ・運営を支援」と記載されている。私のところに女性活動家の方がお見えになる。「やりたい」という方は多いが、事業になっていない、自活している方がほぼいない。自活していないと、市役所に行って「お金をくれ」と言う。「子育て団体等の立ち上げ・運営を支援することにより」ではなく、「子育て団体等の立ち上げ、育成を支援することにより」にし、事業的な部分を入れて、運営自体の面倒を見てくれではなく、自立するような人を作らなければいけないと思う。</p> <p>資料 54 ページについて、新潟大学から、学校の勉強だけでは就職できなくなったとのことでオファーがあり、来年から新潟大学で講師をするこ</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>とになった。学校の勉強に追いつくことは大切だが、今の子は圧倒的に経験値が足りない。知り合いの中小企業の社長に「大卒じゃないとダメ？」と聞くと「大卒じゃなくてもいいが、会社に入って動ける人間じゃないとダメ。」と言っていた。石を投げれば社長に当たる希少なまち三条なので、経験値を積むために、子どもたちが働くことができる環境作りを企業の方からやっていただく新しい取組があればいいと思う。子どもでもできる仕事は、企業の中にふんだんにある。教育の部分は経験値を積まないと立派な子どもにならない。世の中に出るということをやってきたから、三条はこれだけ伸びた地域性がある。地域性をうまく活用し、経験値を積むことを教育の中に入れてもらおうと企業もお手伝いができる場所が増えると思う。</p> |
| 小林課長 | <p>子育て支援団体の運営について、基本的には行政におんぶにだっこでは困る。民間団体も自立をしていただいた上で様々な活動をしてほしいと思っている。学校以外で経験値を積むという提案については、これから、検討していく。</p> |
| 平岡部長 | <p>家庭の教育力の向上について、我々の問題意識としては、どちらかというとキャリア教育的なところではなく、いずれの子も一人の人間として、社会性などを身に付けていくにはやはり家庭が基本であるという考え方の下、書いた項目である。他方で委員御指摘のキャリア教育という視点も非常に大事な視点。それをどこで賄うかという、それは学校教育プランでカバーしているため、このプランには記載しなかった。</p> |
| 高橋委員 | <p>問題行動を起こす子どもは親の教育ができていないことが見受けられる。親たちを教育しなければならない。それを認識して親のことで悩んでいる子ども達が結構いる。家庭内での教育と言われても難しい。親も一緒に子どものことを考えることができない方がいるので、そこを加味して進めていってほしいと思う。</p> |
| 平岡部長 | <p>資料 40 ページの「子ども・若者の安心感の確保」の中で支援が必要な家庭やお子さんに対する仕組みとして子ども・若者総合サポートシステムを展開してきている。家庭の困り感、また、お子さん自身の困り感についてもしっかり対応していこうと思う。</p> |
| 山田委員 | <p>資料 53 ページ、青少年指導員の巡回パトロールについてだが、昨年私の勤務する学校で PTA での見守りの回数を減らした。青少年指導員の経験者の方に聞くと「そんなに回らなくてもいい」という声がある。回数の方を再考をお願いしたい。</p> |
| 小林課長 | <p>青少年の育成支援の観点から、登下校時の子どもたちへの声掛け等をお願いしている。70 人ほどの指導委員の方から月に数回実施をいただいている。事務局等と話し合い、回数等を決めようと思う。</p> |
| 山村委員 | <p>資料内での「企業への働きかけ」について、全て、啓発というスタンス</p> |

| | |
|--------------|---|
| <p>小林課長</p> | <p>になるのか。子育て団体に関しては「立ち上げ、運営支援」で「啓発」にはならない。中小企業が多い中で、啓発ばかりでは難しい。</p> <p>企業に対する支援がどこまでできるかということは、昨年度経済ビジョンもできたので、経済部、商工会議所等と話をしながら取組を決めていこうと思う。現時点では、啓発活動としか記載できなかった。企業への支援についても経済部と一緒に考えていきたい。</p> |
| <p>宮島委員</p> | <p>資料 54 ページ、「NP 講座」とは何か、また、パパも取り込んでいかなければならないのに「ママ講座」はいかがなものか。</p> |
| <p>小林課長</p> | <p>実際はパパ講座もやっている。NP 講座とは「ノーバディーズパーフェクト 完全な親などいない」という啓発講座になる。分かりにくい表現なので記載を検討し修正しようと思う。</p> |
| <p>真壁委員長</p> | <p>事務局からその他として何かあれば、お願いしたい。</p> |
| <p>小林課長</p> | <p>皆様からいただいた御意見を参考に、検討を進めていく。</p> <p>次回は 12 月 20 日（金）午後 1 時 30 分から開催させていただきたい。第 3 期すまいる子ども・若者プランの第 6 章、第 7 章の提示をさせていただく予定。また、お気付きの点があったらいつでも教えてほしい。</p> <p style="text-align: right;">(午後 3 時 10 分閉会)</p> |